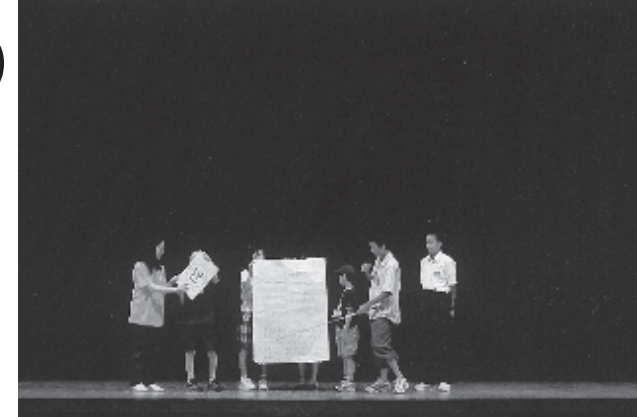




家族で学ぼう 友だちと学ぼう

次世代へ平和の尊さを語り継ごう

終戦から今年の夏で57年目。戦争の悲惨さや核兵器の恐ろしさを体験した世代の人が少なくなっています。播磨町では昭和57年に「核兵器廃絶のまち宣言」を行い、今年も8月8日(木)～10日(土)に「播磨町平和特使」を長崎に派遣。また8月18日(日)～19日(月)の「広島平和のバス」では、22家族が平和の大切さを考えました。



平和ドーム前の参加者の皆さん

語りべさんは小松さん
今日の語りべさんは六十六歳の小松さんだった。マイクを持つ手もしんどそうな様子で、広島と原爆のことを熱心に話してくださった。小松さんのうでにやけどのあとが見える。「最近まで、絶対に半袖の服は着なかつたんですよ。」と教えてくれた。やけどのあとを人に見られるのが、はずかしくて、くやしくて、悲しく



播磨西小学校5年 水野 陸くん

平和記念資料館で、原爆の被害の様子や被爆者の遺品などを見ました。残酷すぎて思わず顔をそらしてしまうほどでした。自然災害ではなく、人間の手によって多くの尊い命が奪われたのはとても悲しい事だと思いました。そして、今なお核実験を行っている国や新たな核兵器の開発を進めている国があるということに驚きました。もっと多くの人に広島のことを知ってほしい。世界中から核兵器がなくなるまで。

広島と原爆



播磨南中学校1年 奥野 早友梨さん

家族で学んだ

広島平和のバス

平和のバスに参加して
八月六日八時十五分、一個のぼくだんで約十四万人の人がいっしょに死んだ。大げがやけどをしました。わたしは、それを聞いただけで悲しかった。広島平和記念資料館では、ばく風でやぶれた服、人々がやけどをしながらにげようとするもけいや絵などがあり、見てい



播磨小学校5年 王子 由佳理さん

で、心の中で泣いて過ごしたそう。あの原爆が広島に投下されたのが実験だったという悲しい事実を聞いて、ぼくはめちやくやくやしくなりました。最後に小松さんが話してくれた。「人間は生きるために生まれてきたんですよ。この世に生まれてきたからには、どんなことがあっても生きていかなあかんです。自分ができる事から始めよう。あいさつから、笑顔から始めよう。それでいいんだよ。それが平和につながるんだよ。」

平和を未来へ



播磨南中学校2年 小林 奈津子さん

広島。そこで自分が知らない戦争を見つめてきました。平和の灯は、本当の平和がくるまで消せないと聞き、本当の平和を呼び寄せるのは、世界中の人々からおとなになっていく私たちなのだと思います。本当の平和がくる一歩後まで私は思いつけていた。平和。それは未来へつなぐもの。新しい平和への道。進んでいきたいです。

平和祈念講話会



心に残る体験談

八月五日(月)、中央公民館で行われた「平和祈念講話会」に今年も町内の中学一年生三百八十人と住民の方々が参加。講師は広島在住の寺前妙子さん。被爆者の悲惨な様子やその後の苦悩などを語られて「二度とあのような悲劇のない社会をつくらなければならない」と訴えられました。

「播磨町平和特使」としてピースフォーラムに参加して



播磨南中学校3年 筒井 裕一朗くん

僕は、今回長崎に行ってみて、この活動がとても大きな意味を持っているということがわかった。

ピースフォーラムでは、被爆者の体験講話で、無差別に人を死に追いやってしまう原爆の恐ろしさが伝わってきた。

班別交流会では、自分たちの周りにある身近な事をじっくり話しあうのはとても必要だと思った。

原爆資料館では、原爆の破壊力や悲惨さを改めて認識した。

僕たちにとって、平和が当たり前になっている今、同じ悲劇を繰り返さないようにみんなで努力していくべきだと思う。



播磨中学校2年 佐伯 里絵子さん

被爆者体験講話では、和田耕一さんが、戦争中の悲惨さ、辛さ、原爆が落ちてからのことなど、とてもわかりやすく話してくれました。今の私たちには、想像もできないことばかりでした。本当に日本でそんなことがあったんだと改めて実感したのが、原爆資料館での写真や映像・模型から本物まで、たくさんの展示品を見てからです。

なぜ日本があんなことになるまで戦争をしたのかわかりません。私たちは平和祈念式典、班別交流会、出島見学などを通して、他の県の子とも友だちになれ、戦争や原爆のことを学べてとてもいい経験ができたと思っています。

被爆者の和田さんの講話で、学校で教わった以上の戦争の実体、原爆の実体を学ぶことができました。

班別交流会では「平和を妨げるもの」についての宣言文を平和特使のメンバー4人で、地元の言葉で考えた時は、すごく「私たちの平和な未来」というものが、身近に感じられました。他の班の子が考えた宣言文をいろんな方言で聞くと、個人個人の意見として私の心にも響いてきました。平和祈念式典での児童合唱は今も耳に残っています。

この青少年ピースフォーラムに参加して、平和な社会には核兵器なんていらぬ、あってはいけないと強く思いました。原爆の恐ろしさ、戦争の悲惨さ、平和の大切さが身にしみてわかり、すごく良い経験になりました。



播磨南中学校3年 山田 昌代さん



播磨中学校2年 鷲尾 和也くん

ぼくは、長崎の青少年ピースフォーラムに、町の平和特使として参加しました。

被爆者体験講話では、本や新聞ではわからない原爆の恐ろしさについて知りました。原爆の恐ろしさを次の世代に伝えることが世界平和につながるのだと思いました。平和祈念式典の「平和への誓い」では57年経った今も、心と身体に傷を残す原爆に対して怒りを覚えました。「長崎を最後の被爆地に」という言葉には長崎市民一人ひとりの平和への願いが込められていると思いました。

僕たちは戦争を知りませんが、平和に向けて努力する事ならできます。世界平和の実現とは、僕たちが受け継いでいく大きな役目だと思います。